

バイオリニストの渡辺玲子がバッハ、ヒンデミット、エルンストらの無伴奏曲を集めたCD「SOLO」(フォンテック)を発表、ほぼ同じ曲目でリサイタルも開く。

【梅津時比古】

5年前から「今回のCDの曲目を計画に入れて」、リサイタルで無伴奏に取り組んできた。

「バイオリンは、旋律的な楽器なので、無伴奏で一人で和声から構築まですべてをとらえるのは大変。そのぶん自由になれる。オーケストラやピアノとのアンサンブルは刺激があっというけれど、私が個人的に過ぎるのか、私のテンポ感、歌わせ方で、完全に一人でやりたかった」

バッハらの無伴奏曲集めたCD

「もっと自由な語法で」

2001年にはバッハの「た」

無伴奏ソナタ&パルティータ全曲リサイタルを行い一部の録音もした。

「私のバッハへの考え方がそのころとは変わってきています。これまでバッハをきっちりとりあげていたP31の1」と、「バイオリ

バイオリニスト 渡辺 玲子

けれども、古楽的なアプロンという楽器が本質として、いちを多く聴くことで、もっと多様なとらえ方ができることに気づき、自分の自由な語法で弾くようになった。特に今回取り上げた3番の「パルティータは器楽的、自由なヴィルトゥオソのサントリートホル・ブルティがある」、自分が消化した方向で弾きたかった。

リサイタルは19日、東京のサントリートホル・ブルティがある、自分が消化した方向で弾きたかった。3560・3010。



「SOLO」を発表したバイオリニストの渡辺玲子